

市立

いちかわ

自然博物館だより

令和2年(2020年)

6-7月号

(通巻 188号)

2020年度

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！



自然博物館収蔵写真

カブトムシ

自分の手で捕まえたい・・・そんな
小さな願いを叶えてあげられませんか。
せめて見るだけでも、と思います。

P1 ☀️ いきもの写真館
カブトムシ

P2 ☀️ センサーカメラの記録
2019年6月～7月
/ 3

P4 ☀️ いちかわの植物 30年
オニノヤガラ

P5 ☀️ 街かど自然探訪
本北方・青い実がたくさんついていた

☀️ くすのきのあるバス通りから
自粛生活の春

P6 ☀️ 展示室 飼育生物の話題
レンガの上のトビハゼ

P7 ☀️ わたしの観察ノート
3～4月の記録

P8 ☀️ 自然博物館 利用案内

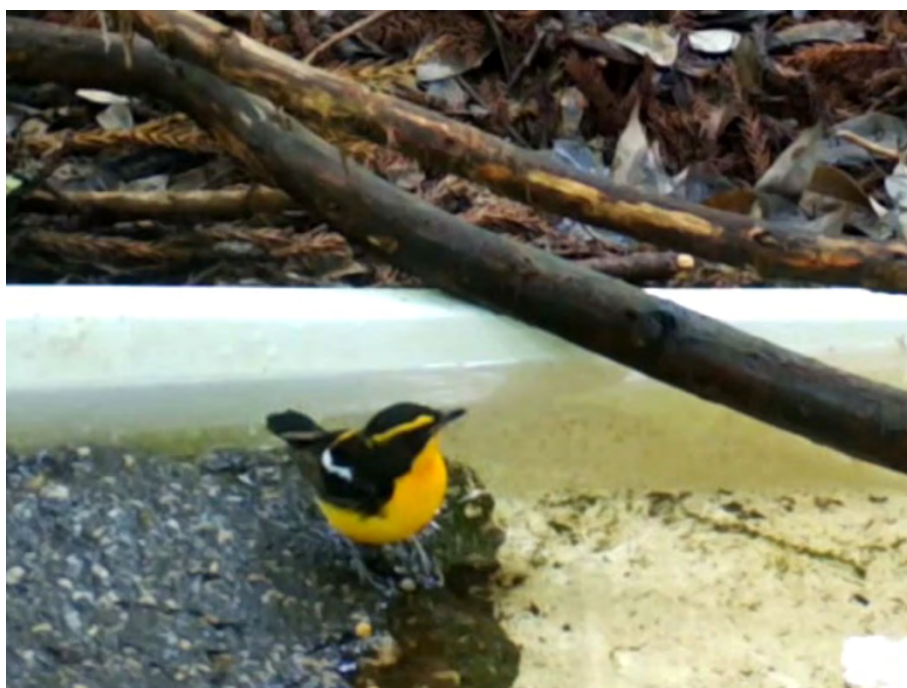
博物館だよりはホームページでもご覧いただけます。



センサーカメラの記録

(2019年6月～7月)

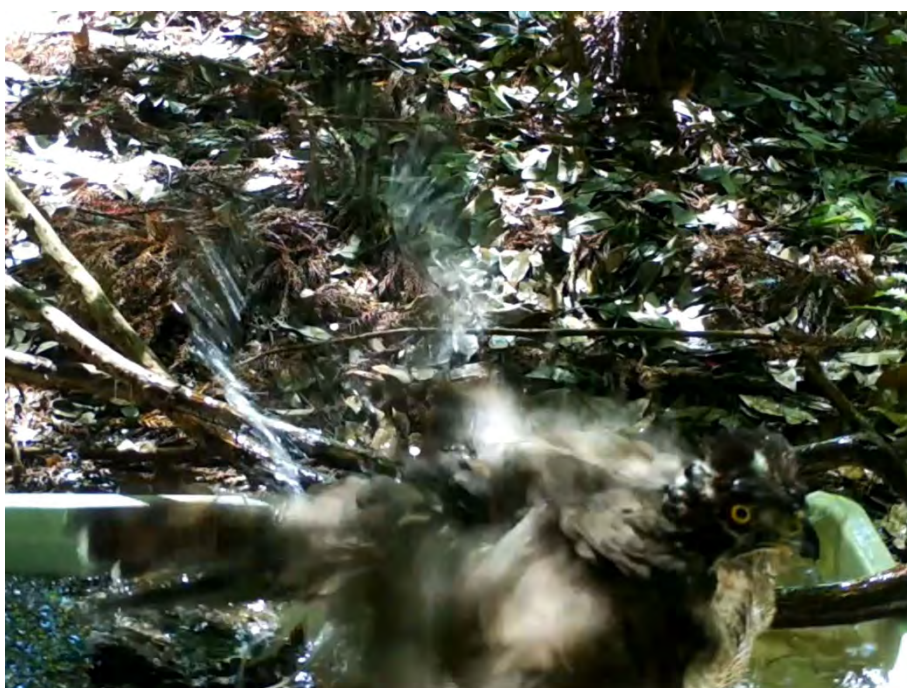
自然博物館では、長田谷津（大町公園自然観察園）の斜面林内にセンサーカメラ（自動撮影装置）を2か所、設置しています。1か所は人工的に作った水場、もう1か所は「けもの道」です。記録は動画ですが、ここでは静止画像を切り取って紹介していきます。



キビタキ

(2019年6月11日 11時29分)

水場で水を飲んだが、水浴びはしなかった。回数は多くないが、秋まで何回か記録された。



オオタカ

(2019年6月13日 14時46分)

水場に慣れたオオタカは、何度も飛来し水浴びをした。オオタカには容器が狭そうだったが、水しぶきをあげて全身くまなく水を浴びていた。



タヌキ

(2019年7月14日 10時49分)

昼間だが、天気の関係で赤外線撮影となった。この時画面には4頭が写ったが、記録を開始してすぐに散らばってしまった。正面の2頭と右上にもう1頭のしっぽが写っている。



ノウサギ

(2019年7月2日 19時43分)

夜間のため赤外線撮影。

都市に適応しているタヌキ、ハクビシンと違い、ノウサギは市川市域では滅びゆく動物。画像が記録されるたびに安心した。

6月から7月の撮影記録(種名、西暦の下2桁と月日)

哺乳類

アカネズミ:190630

タヌキ:190621,190630,190703,190704,190705,190706,190714,190715,190716,190718,190727

ノウサギ:190702,190714

ハクビシン:190606

鳥類

オオタカ:190608,190612,190613,190614,190621,190622,190623,190626,190627,190710,190711

キビタキ:190607,190611,190612

シジュウカラ:190611,190614,190626

ハシブトガラス:190721,190724

ヒヨドリ:190613,190614,190622,190625,190626,190721,190724,190725

ヤマガラ:190608,190609,190611

いちかわの植物 30 年

自然博物館の 30 年あまりの活動で得られた写真を用いて
市川市域の植物を紹介します。

オニノヤガラ

オニノヤガラは、おそらく「鬼の矢柄」です。
「おそらく」というのは、昔からある野草の名前の多くは自然発生的なもので、特定の誰かが根拠を明記して付けたわけではないからです。

「鬼」は大きいことを意味します。「矢柄」は弓矢の棒の部分のことで、この植物の外観を表しています。鬼が使う弓矢の矢柄みたいな植物という意味で、オニノヤガラでしょう。

色が緑ではなく葉も見当たらないことからわかるように、自分では光合成をしない植物です。かつては「腐生植物」、いまは「菌従属栄養植物」と呼びます。図鑑によればオニノヤガラはナラタケというキノコの菌糸と共生しているそうです。写真は、まだつぼみです。この

後、花序が伸びて多数の花を咲かせますが、この時は採集して標本にしました。市川市産のオニノヤガラは、博物館の収蔵庫に保管されています。



オニノヤガラ(1990 年 5 月 18 日)
大町。生育場所の環境は現在まであまり変わっていません。もしかしたら、いまでも毎年、咲いているのかもしれませんが。



街かど自然探訪

おじゃまします!

もと きた かた

本北方・青い実がたくさんついていた

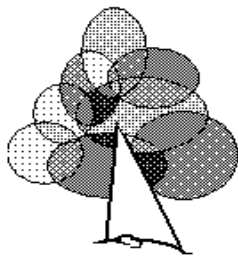
浅間橋から北側の大柏川沿いのフェンスを、青い実をたくさんつけた植物が覆っています。オオイタビという、つる性で常緑の樹木で、護岸の緑化のために植えられたものです。実を切ってみると、内側に柔らかい繊維状のものがああります。この一つ一つが本当の花です。つまり青い部分は実ではなく、茎が膨らんで花の集まりを包み込んだものです。熟すと色が黒ずんできますが、残念ながらイチジクのような食用にはなりません。



△オオイタビ（クワ科イチジク属）

右下は実に見えるものの断面。

ツボ状の内面に、内側を向いた小さな花がびっしり集まり、一つの花序をつくっている。先端の小さな穴から虫が出入りすることで、受粉する仕組み。



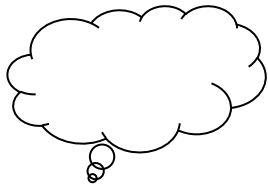
くすのきのあるバス通りから No.130

自粛生活の春

今年は花旅を計画していました。ロウバイ、セツブンソウ、カタクリ、ミツマタ、ザゼンソウまで見ました。4月7日から新型コロナウイルス感染症に対する緊急事態宣言により、不要不急の外出は自粛となりました。通年観察に行くつもりだった成東・東金食虫植物群落も立ち入り禁止、各地の資料館・博物館も休館となりました。花見は禁止、学校が休校になり、保育園や小学校からの子供たちの声がなく、ご近所はひっそりしています。

5月中は、東京で夏日が6日も続いたかと思うと気温が10度下がったりしました。木々の新芽は青々となり、ニシキウツギ、スイカズラ、ムラサキツユクサが咲いています。ハナミズキは花が咲いている木と、実がついている木もあります。ツバメやムクドリは子育てで忙しそうです。我が家のアシナガバチは、冬の間空き家になった巣の下に、新しい巣を作り始め、今13部屋です。

(M. M.)



展示室

No.32

飼育生物の話題



レンガの上の トビハゼ

トビハゼは、干潟の泥の上をピョンピョンと飛び跳ねるユーモラスな魚です。有名なムツゴロウと似ていますが、九州の有明海一帯でしか見られないムツゴロウとは違い、トビハゼは東京湾にも生息しています。特に市川市域では江戸川放水路と行徳近郊緑地特別保全地区(行徳野鳥観察舎)という2か所で見られ、そこは最北限の生息地といわれ、市内の湾岸地域を代表する生物のひとつとして知られています。

自然博物館は、市域北東部の大町地区に立地しています。水の流れでいうと真間川水系の源流部です。魚でいうと、ホトケドジョウやスナヤツメの生息圏です。ただ、博物館としては市川市域全体を扱っていますので、東京湾の干潟に生息するトビハゼも飼育して展示しています。

トビハゼの飼育には薄めの人工海水を使います。干潟に相当する陸地にはレンガを用い、レンガの上面ひたひたの水深にします。餌には、キャットフィッシュ用の固形餌と乾燥オキアミを粉にした練り餌を用います。

市内の湾岸地域の小学校でも飼育にチャレンジしてくれることがあります。当館流のカンタン飼育なら子どもたちでもだいじょうぶです。本物を間近に見ることは重要です。得られる情報の量と質はオンラインの比ではありませんから。



◆長田谷津より

- ・スナヤツメの産卵を確認しました(3/6)。7頭ほどで産卵を行っていました。産卵に参加していない個体も1頭いました。
- ・昼間から鳴き声が聞こえ探してみると、枝先にいるフクロウを確認できました(3/13)。2個体いるようで、おそらく番(つがい)だと思います。

以上 稲村優一(自然博物館)

- ・湿地のあちこちを飛ぶ白いチョウは、大半がツマキチョウでした(3/27)。今年は当たり年なののでしょうか？
- ・イヌザクラが、咲き始めました(4/28)。湿地が埋まるのに伴い、鳥が運んだ種子があちこちで芽生えるのでしょうか。年々、増えているように感じます。

◆大町より

- ・動物園内の雑木林に、1年前、新しく斜路を作りました。木を伐り、土を掘り返した工事でした。その結果、明るい裸地が生まれ、たくさんのタチツボスミレが咲き、その中にフデリンドウも混じっていました(4/17)。眠っていた種子が発芽したのでしょうか。

以上 金子謙一(自然博物館)

◆大野町より

- ・駒形神社の横の住宅地の中からツミの声が聞こえてきました(4/17)。昨日観察園で見たばかりなので同じ個体なのかなと思いましたが、姿は見えませんでした。

稲村優一

◆堀之内貝塚より

- ・ぽかぽか陽気の陽だまりに早くもアマナの小さな花芽が見られました(3/1)。
- ・アマナが咲きました(3/13)。たぶん2～3日前から咲きだしたと思われます。今年は早いです。

◆小塚山より

- ・この地域ではあまり見たことのないキケマンが咲いていました(3/18)。翌日、写真を撮りに行ったら大きな花は折り採られていました。

以上 谷口浩之さん(北国分在住)

◆真間山南側斜面林より

- ・今年もウグイスが鳴き始めました(3/5)。まだちょっとぎこちないです。
- ・斜面林下の草っ原でウラギンシジミを見ました(3/15)。シジミチョウ、キチョウ、スジグロシロチョウなどもとびまわり始めました。
- ・クロアゲハがとんでいました(4/12)。寒暖の差が激しい春です。

以上 M.T. さん

◆江戸川放水路より

- ・栈橋下で、巣穴に出入りするトビハゼを見つけました(3/24)。風が非常に強かったのですが、船の間でのんびり動くヤマトオサガニの姿も見ました。

宮橋美弥子(自然博物館)。

天気は周期的に移り変わり、晴れて暖かい日が多くありました。季節は1週間ぐらい早い感じで進みましたが、3月29日に満開の桜に雪が降って驚きました。



自然博物館 利用案内



開館時間

午前9時30分～午後4時30分（入館は4時まで）

休館日

- ・毎週月曜日（ただし月曜日が休日の場合は翌日）
- ・年末年始
- ・展示室整備のための休館（令和3年2月頃を予定）

交通案内

○北総線「大町駅」より

自然観察園入口まで 徒歩5分

観察園を抜けて 徒歩25分

○JR武蔵野線「市川大野」駅より

コミュニティバス往復ルート「松飛台駅」行き

「動植物園」下車（1日数本運行）

○JR総武線「本八幡」駅北口、

JR武蔵野線「市川大野」駅より

京成バス「動植物園」行き

終点下車（土休日のみ運行）

○お車の場合は、

動植物園入口の駐車場

（普通車500円）を

ご利用ください。



第33巻 第2号（通巻第188号）

令和2年7月1日 発行

編集・発行/市立市川自然博物館
（市川市教育委員会生涯学習部）

〒272-0801千葉県市川市大町284番地

☎047(339)0477